

「平成 29 年度全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査結果について

1 調査の実施

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日

平成 29 年 4 月 18 日 (火)

(3) 本市の参加状況

○全国学力・学習状況調査 <県：小学校 15,909 人 中学校 16,226 人>

	参加児童数	参加生徒数
平成 29 年度	小学校 6 年生 388 人	中学校 3 年生 432 人

○岡山県学力・学習状況調査

	参加児童数	参加生徒数
平成 29 年度	小学校 3 年生 406 人	中学校 1 年生 393 人
	小学校 4 年生 406 人	中学校 2 年生 453 人
	小学校 5 年生 414 人	

2 本市の学力状況について

(1) 全国学力・学習状況調査

数値は平均正答率 (%)

	小学校					中学校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	全体	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	全体
玉野市	73	55	77	42	61.7	79	73	66	50	67.0
岡山県	75	58	79	46	64.5	77	71	64	47	64.7
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	64.2	77.4	72.2	64.6	48.1	65.6
県との差	-2	-3	-2	-4	-2.8	+2	+2	+2	+3	+2.3

○小学校においては、国語、算数ともに、県平均、全国平均を下回っているが、この学年の昨年度の県たしかめテストと比較すると県との差は縮小している。

○中学校においては、全教科で県平均、全国平均を上回っている。

(2) 岡山県学力・学習状況調査

数値は平均正答率(%)

	小学校3年生		小学校4年生		小学校5年生	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値	73.0	72.2	67.2	73.3	69.3	69.6
玉野市	78	73	68	74	73	67
岡山県	77	73	70	75	74	70
全国	80	77	71	77	76	73
県との差	+1	0	-2	-1	-1	-3

	中学校1年生		中学校2年生		
	国語	数学	国語	数学	英語
目標値	68.3	66.3	67.2	58.0	61.0
玉野市	73	68	71	62	64
岡山県	73	67	70	59	60
全国	73	68	70	58	61
県との差	0	+1	+1	+3	+4

- 小学校においては、目標値は概ね上回っているものの、第4学年、第5学年においては、国語、算数ともに県平均を下回っている。
- 中学校においては、国語、算数ともに県平均を上回っている。

< 課題 >

- 理論的に自分の考えをまとめ、書いて表現し、説明する活動が苦手であること。
- 国語においては比較的長い文章を読み取り、わかったことや考えたことを条件に合わせて記述する問題が苦手であり、無回答率が高いこと。
- 算数においては、苦手傾向にあった図形や割合、単位量あたりについて苦手な傾向が続いていること。

3 児童・生徒質問紙調査から見える本市の特徴について

<小学校5年生>

- ・読書をしたり、新聞の記事を読んだり、テレビのニュースを見たりしている児童が県平均より多い。
- ・授業で分からないことがあれば先生に質問しているという児童が、国語、算数ともに県平均より5ポイント以上高く、授業の予習、復習をしている児童の割合も多い。
- ・伝えたいことを明らかにして文章を書いている、改行などの形式を工夫して文章を書いているという質問については県平均よりも肯定率が低く、学力調査の結果からも、書く活動に課題が見られる。
- ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのが難し

いと感じている児童が66%と高い。

- ・自分によいところがある、友達や先生、家の人から認められているという質問に対して肯定的に回答している割合が、県平均を下回っている。
- ・平日、1日あたりに1時間以上ゲームをしている児童の割合が67%であり、県平均よりも3ポイント高い。

#### <小学校6年生>

- ・読書が好きであると答えている児童が、全国平均よりも10ポイント高い。
- ・家で学校の宿題をしている児童の割合は約90%と多い。予習をしている児童の割合は40%程度だが、復習をしていると答えた児童の割合は約65%と、県平均よりも5ポイント、全国平均よりも10ポイント高い。
- ・平日1時間以上学習している児童は70%と全国平均を5ポイント上回っているが、休日勉強している時間が1時間以上の児童の割合は51%であり、全国平均より6ポイント少ない。
- ・平日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用して通話やメール、インターネット等をしている児童の割合が25%を超えており、全国平均よりも5ポイント高く、使用時間が増加傾向にある。
- ・ノートに学習の目標やまとめを書いていたと回答した児童が全国平均より多く、目標や振り返りなどを教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が全体的にみて高い。
- ・原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことや自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることに難しさを感じている児童が多い。
- ・調査問題の解答時間がやや足りない、全く足りないと答えた児童が、全国平均よりも高い。特に算数B問題では、足りないと答えた児童が55%と、全国平均よりも8ポイント高く、回答に時間を要している児童が多い。

#### <中学校1年生>

- ・生活行動の調査については、ほとんどの質問で、県平均よりも肯定的に答えた生徒の割合が高い。
- ・自分の力をできるかぎり伸ばしたいと考える生徒が95.7%と高い。
- ・読書をしている生徒の割合が県平均も5ポイント高い。宿題をきちんとしている生徒の割合も97%と多い。
- ・授業の中で、じっくり考える時間があつた、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたと回答した生徒の割合が多く、「学び合い」に積極的に取り組んでいる状況があらわれている。
- ・普段(月～金曜日)、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をしている生徒は78%と県平均より3ポイント高い。しかし、土曜、日曜日になると50%に下がり、県平均よりも5ポイント低い。

#### <中学校2年生>

- ・学校が好きである、地域が好きである、自分のことが好きであると答えた生徒の割合が高い。また、友だちや先生から認められていると感じている生徒の割合も県平均よりも高い。
- ・宿題をきちんとしている生徒が90%おり、返された答案を見直していると答えた生徒の割合が県平均と比べ5ポイント以上高い。また予習、復習をしている割合も県平

均を上回っている。特に英語の予習は15ポイント、復習は10ポイント高い。

- ・国語、数学、英語において授業で分からないことがあれば先生に質問しているという生徒が、県平均より10ポイント高い。
- ・話し合いで、自分の考えを積極的に話している生徒が県平均よりも10ポイント高い。
- ・伝えたいことを明確にして、論理や構成を工夫して文章を書いている生徒が多い。
- ・ALTと積極的に英語で話したり、英文を聞き取ったり読み取ったりするために工夫している生徒が多い。
- ・授業のはじめに目標が示されていた、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた等、教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が総じて県平均より8～15ポイント高い。
- ・普段(月～金曜日)、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をしている生徒は約70%、土曜、日曜日は59%と県平均よりも高い。

#### < 中学校3年生 >

- ・将来の夢や目標を持っていると答えている生徒は70%以上と多い。
- ・家で学校の宿題はしている生徒は93%と全国・県平均よりも多いが、予習、復習をしている生徒は全国より少ない。
- ・普段(月～金曜日)、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をしている生徒は52%と、全国平均より20ポイント近く少ない。また、土曜、日曜日においても、家での学習が1時間より少ない、または全くしない生徒が約42%おり、全国平均より12ポイント以上多い。休みの日には、部活動に取り組む生徒が多く、それ以外には、テレビやビデオを見たり、ゲームをしたりしている生徒が多い傾向が見られる。
- ・平日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用して通話やメール、インターネット等をしている生徒の割合が49.5%と、全国平均を若干下回っているが、43%だった昨年度よりも増加傾向にある。
- ・授業のはじめに目標が示されていた、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと回答した生徒が全国平均より10ポイント以上多い等、教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が総じて全国平均より7～17ポイント高い。
- ・授業の中で生徒間で話し合う活動をよく行っていたと回答した生徒が全国平均より8ポイント、また、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと回答した生徒が全国平均より11ポイント以上高い。

#### < 課題 >

- 宿題をしているにも関わらず家庭での学習時間が少なく、テレビやゲームをしている時間が多い傾向があることから、家庭学習の質や量、教員の点検の在り方、小中学校の連携した指導についての改善、家庭への啓発を図ること。
- 携帯電話やスマートフォンの所持率は全国に比べて低いが、小学校では利用時間が全国平均よりも長くなっている。中学校は全国平均を若干下回っているが、昨年と比較すると利用時間が長くなっている。適切な利用について、家庭と連携しながら適切な利用について働きかけること。
- 小中学校とも、授業の目標・まとめなどの授業づくりの基礎について児童生徒が行っていると回答していることから、教員の授業力の向上の取組は一定の成果を挙げていると考えられるため取組を継続するとともに、質を高めるよう働きかけること。